

午後Ⅱ試験

全問共通

全問に共通して、自らの経験に基づき設問に素直に答えている論述が多く、問題文に記載してあるプロセスや観点などを抜き出し、一般論と組み合わせただけの表面的な論述は少なかった。一方で、実施事項の論述にとどまり、実施した理由や検討の経緯など、システムアーキテクトとして考慮した点を読み取れない論述も見受けられた。自らが実際にシステムアーキテクトとして、結論を導くに当たり、検討して取り組んだ内容を具体的に論述してほしい。

問1

問1では、アジャイル開発におけるユーザストーリー（以下、US という）の規模や難易度の調整と価値に基づく優先順位決定について、具体的に論述することを期待した。適切な論述では、US の分類、規模や難易度の調整、価値に基づく優先順位付けについて具体的に述べていた。一方で、具体的な US やその価値について言及しておらず、一般的な仕様や機能の要件定義について述べている論述や、US の規模や難易度は論述されていても、その調整について具体的に述べられていない論述など、求められている趣旨に沿って適切に論述できていないものも散見された。システムアーキテクトは、US の抽出・調整・優先順位付けなどのアジャイル開発の手法を利用し、アジャイル開発を主導することを心掛けてほしい。

問2

問2では、情報システムの機能追加における業務要件の分析と、その結果に基づく設計について、具体的に論述することを期待した。多くの論述が業務要件の分析とその設計について具体的に述べていた。一方で、業務要件の分析の視点がなく業務要件そのものを分析結果とした論述や、“要件を実現する設計”だけにとどまり、分析結果に基づく設計とは言い難い論述も散見された。システムアーキテクトは、業務と情報システムを橋渡しする役割を担う。そのため、業務と情報システム双方の視点から業務要件を分析し、分析結果に基づいて設計を進めることを心掛けてほしい。

問3

問3では、組込みシステムのネットワーク化について、開発する組込みシステム、ネットワーク及びネットワークに接続されたほかの組込みシステムを含めたシステム全体を考慮した上でのシステムアーキテクチャの設計について、具体的に論述することを期待した。多くの論述はシステム全体を説明した上で、その特徴に基づく課題・制約・解決策について具体的に述べていた。一方で、システム全体の抽象的・一般的な説明に終始している論述や、実装の細部にとどまっている論述も散見された。

組込みシステムのシステムアーキテクトは、対象となる組込みシステムの課題とその解決策を関係者に説明する機会が多いと思われる。平素からシステム全体の概要を適切に把握し、課題と解決策を提案できるよう心掛けてほしい。